



平成28年12月期  
第3四半期  
〈1～9月〉

## 連結決算補足資料

平成28年10月28日

**コクヨ株式会社**

(コード番号 7984)

経営管理本部 財務経理部

お問い合わせ先 : 統括部長 永井 琢也

TEL : 06-6976-1221(大代表)

URL : <http://www.kokuyo.co.jp/>

# も く じ

1. 損益計算書の状況	
1-1 連結情報	…… P. 1
1-2 売上高	…… P. 2
1-3 売上総利益	…… P. 3
1-4 販売費及び一般管理費	…… P. 4
1-5 営業利益及び経常利益	…… P. 5
1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益	…… P. 6
2. 貸借対照表の状況	…… P. 7
3. キャッシュフロー・設備投資の状況	…… P. 8
4. 事業セグメントの損益状況	
4-1 ステーションナリー関連事業	…… P. 9
4-2 ファニチャー関連事業	…… P.10
4-3 通販・小売関連事業	…… P.11
5. 28年12月期の見通し	…… P.12
6. 主なトピックス	…… P.13

(注)この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-1 連結情報

売上高は、海外事業において円高に伴う為替換算による売上減少影響が24億円あったものの、国内事業が伸長し、前年同期比1.7%増の2,328億円となりました。『シェアと粗利率』にこだわる施策の推進により、売上総利益は807億円、売上総利益率は前年同期比0.9ポイント向上の34.7%となり、順調に改善が進みました。また、販管費は、効率的な使用並びに固定費の抑制に努めた結果、671億円となり、売上高販管費率は28.8%と前年同期比0.7ポイント低下しました。以上により、営業利益は前年同期比37.6%増の135億円と大幅増益となりました。経常利益は、円高の進行により為替差損13億円を計上したものの、前年同期比17.3%増の127億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比42.6%増の92億円となりました。

(単位: 百万円)

	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	229,084	232,870	+3,786	+1.7%
売上総利益 (率)	77,451 (33.8%)	80,729 (34.7%)	+3,278 (+0.9p)	+4.2%
販売費及び一般管理費 (率)	67,591 (29.5%)	67,166 (28.8%)	△425 (△0.7p)	△0.6%
営業利益 (率)	9,860 (4.3%)	13,563 (5.8%)	+3,703 (+1.5p)	+37.6%
経常利益 (率)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (率)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%

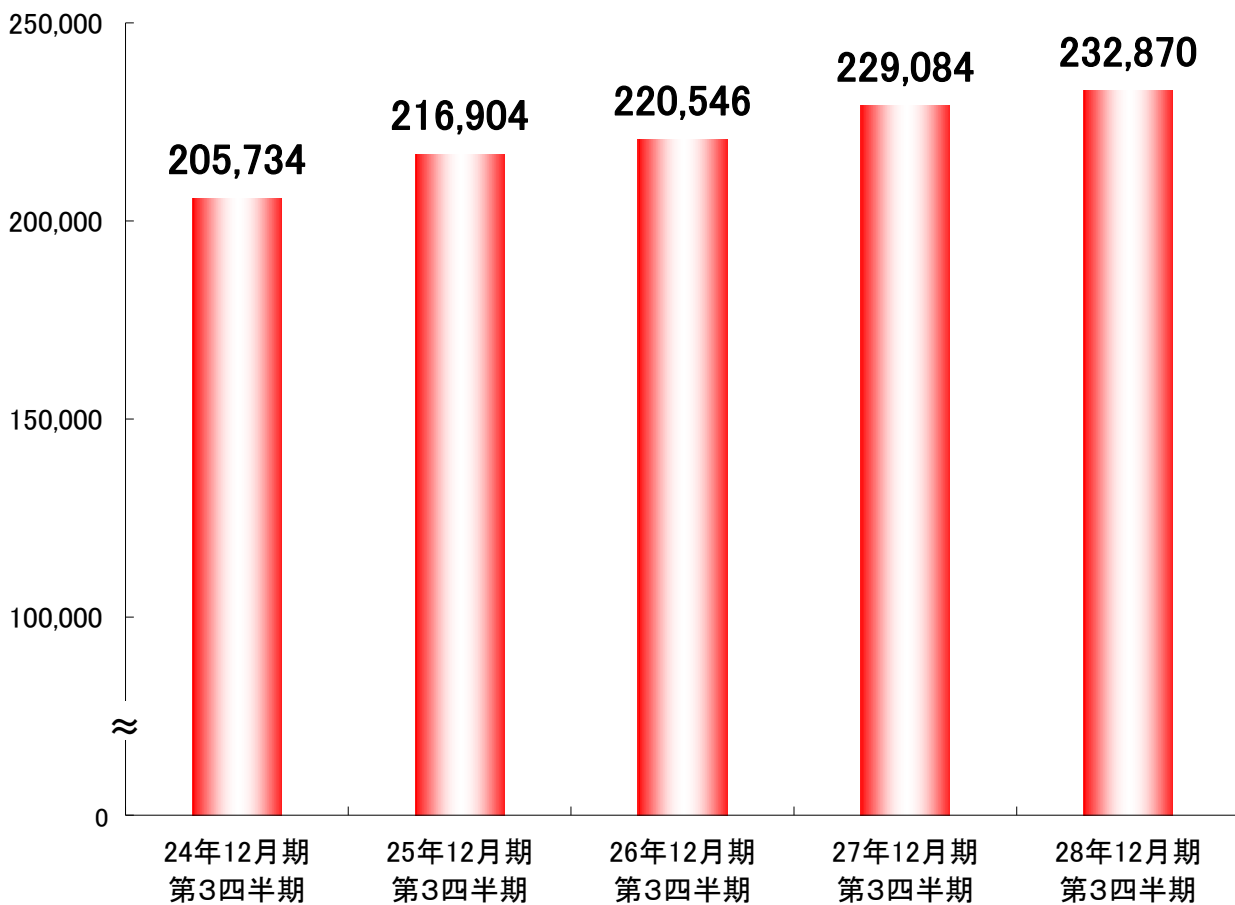
(注) 連結子会社21社・持分法適用関連会社1社

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-2 売上高

売上高は、海外事業において円高に伴う為替換算による売上減少影響が24億円あったものの、国内事業が伸長し、前年同期比1.7%増の2,328億円となりました。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

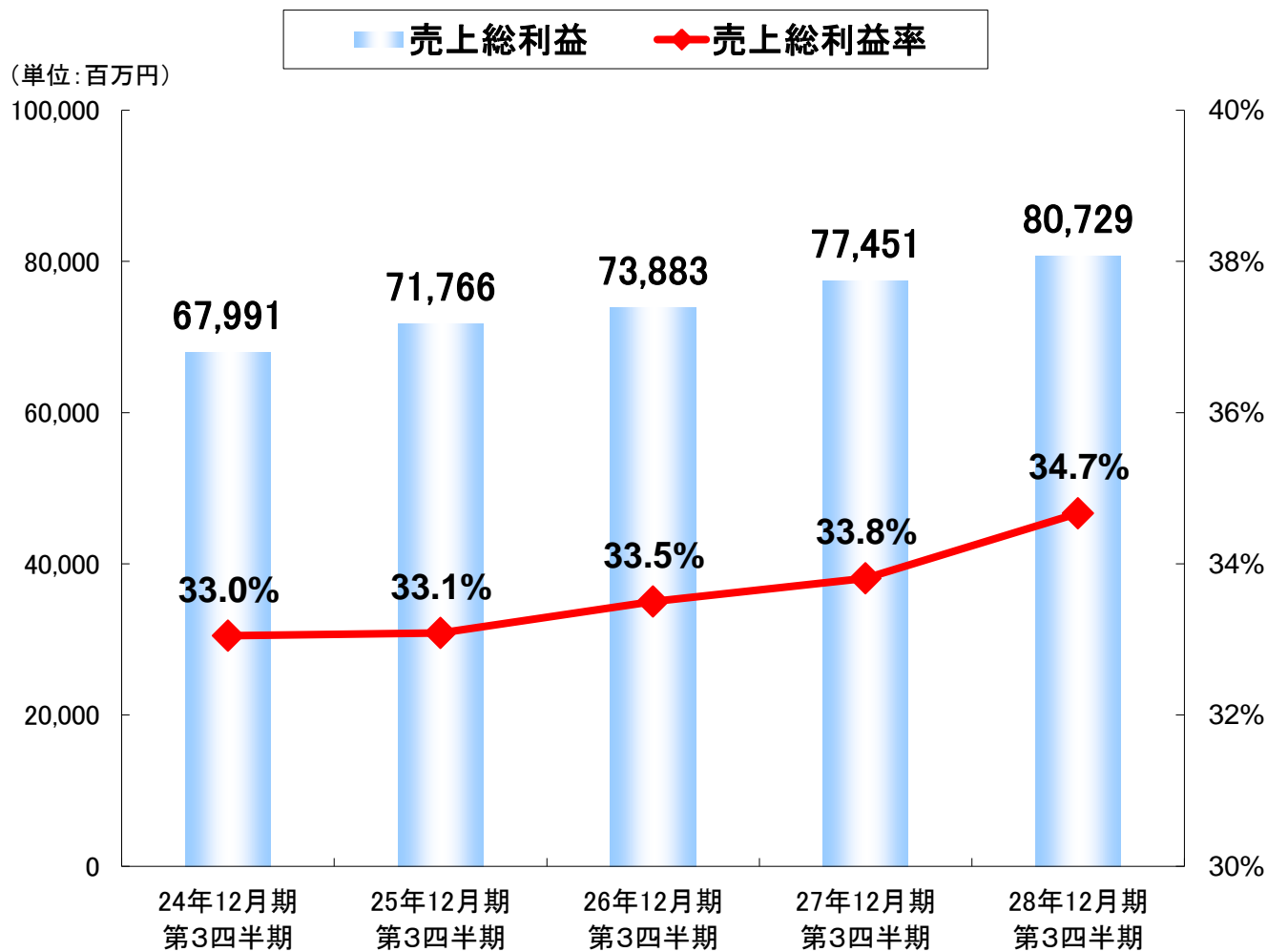
	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	205,734	216,904	220,546	229,084	232,870	+3,786	+1.7%
売上総利益 (率)	67,991 (33.0%)	71,766 (33.1%)	73,883 (33.5%)	77,451 (33.8%)	80,729 (34.7%)	+3,278 (+0.9p)	+4.2%
販売費及び一般管理費 (率)	62,684 (30.5%)	65,523 (30.2%)	67,051 (30.4%)	67,591 (29.5%)	67,166 (28.8%)	△425 (△0.7p)	△0.6%
営業利益 (率)	5,306 (2.6%)	6,242 (2.9%)	6,832 (3.1%)	9,860 (4.3%)	13,563 (5.8%)	+3,703 (+1.5p)	+37.6%
経常利益 (率)	5,741 (2.8%)	7,528 (3.5%)	8,051 (3.7%)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	2,559 (1.2%)	4,425 (2.0%)	4,230 (1.9%)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-3 売上総利益

売上総利益は、増収や売上総利益率の改善により、前年同期比4.2%増の807億円となりました。

売上総利益率は、価格改定の浸透に努めたことやコストダウンの推進等により、0.9ポイント向上し34.7%となりました。



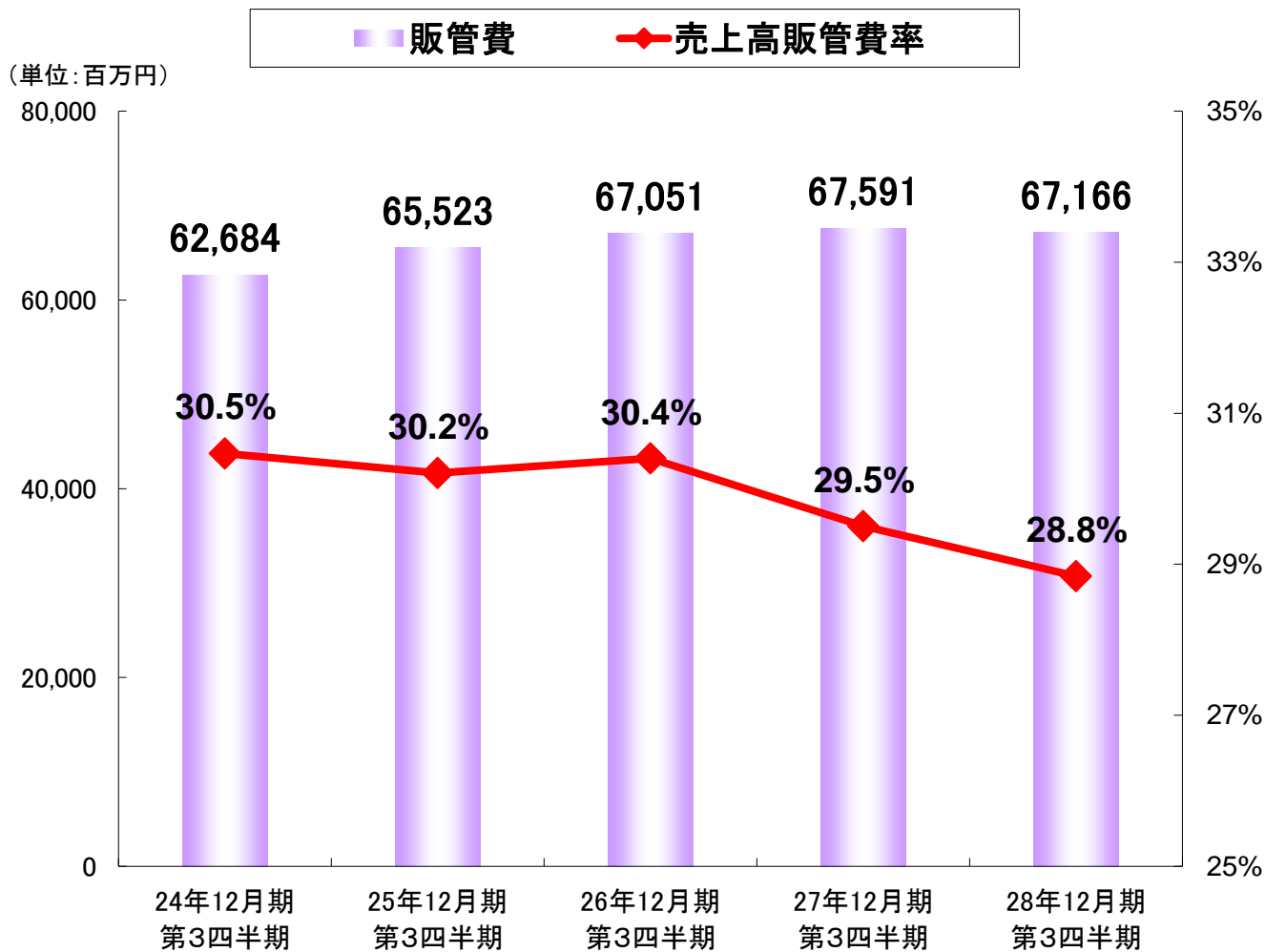
(単位: 百万円)

	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	205,734	216,904	220,546	229,084	232,870	+3,786	+1.7%
売上総利益 (率)	67,991 (33.0%)	71,766 (33.1%)	73,883 (33.5%)	77,451 (33.8%)	80,729 (34.7%)	+3,278 (+0.9p)	+4.2%
販売費及び一般管理費 (率)	62,684 (30.5%)	65,523 (30.2%)	67,051 (30.4%)	67,591 (29.5%)	67,166 (28.8%)	△425 (△0.7p)	△0.6%
営業利益 (率)	5,306 (2.6%)	6,242 (2.9%)	6,832 (3.1%)	9,860 (4.3%)	13,563 (5.8%)	+3,703 (+1.5p)	+37.6%
経常利益 (率)	5,741 (2.8%)	7,528 (3.5%)	8,051 (3.7%)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	2,559 (1.2%)	4,425 (2.0%)	4,230 (1.9%)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-4 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、効率的な使用や固定費の抑制に努めたことから前年同期比0.6%減の671億円となり、売上高販管費率は28.8%と0.7ポイント低下しました。



(単位: 百万円)

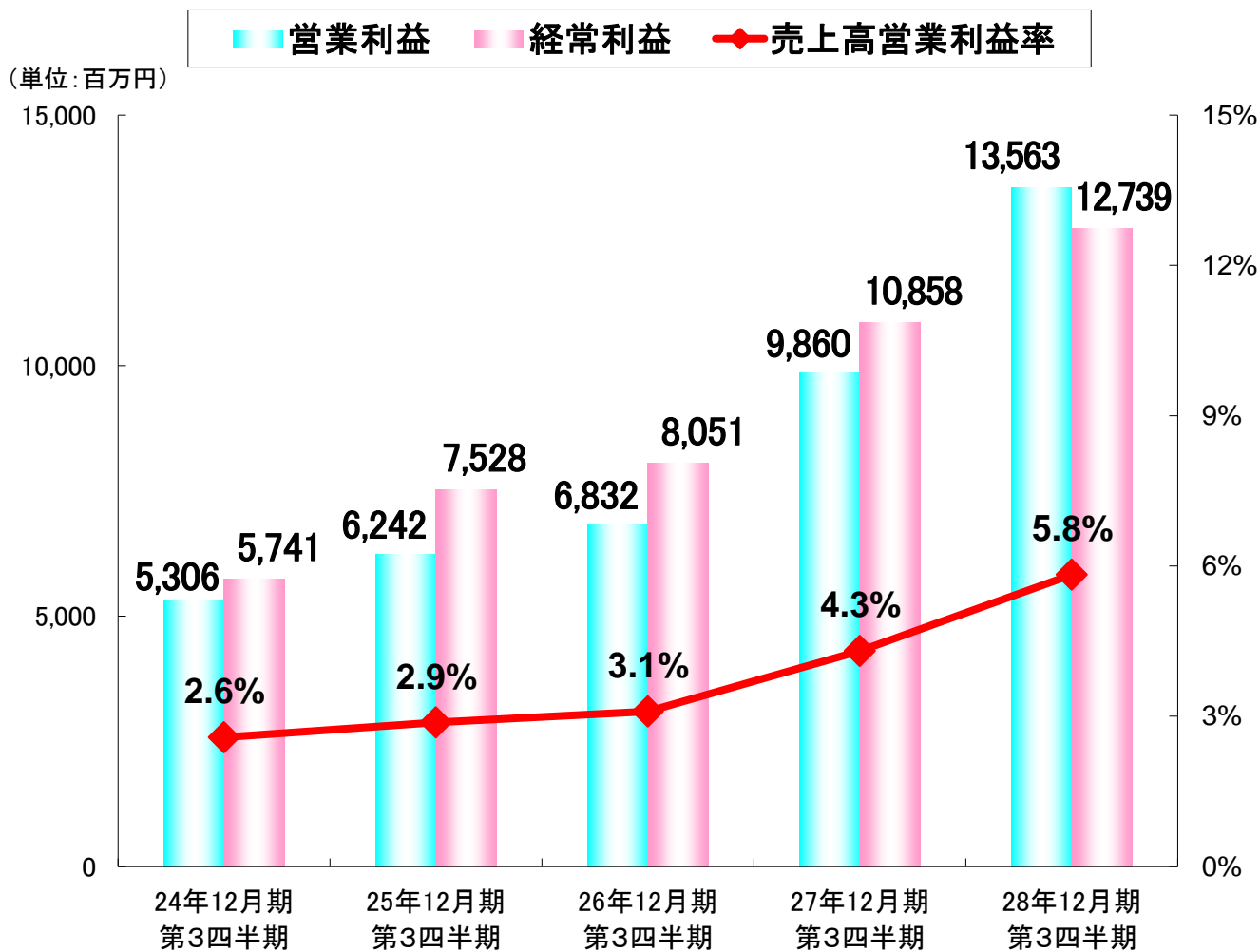
	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	205,734	216,904	220,546	229,084	232,870	+3,786	+1.7%
売上総利益 (率)	67,991 (33.0%)	71,766 (33.1%)	73,883 (33.5%)	77,451 (33.8%)	80,729 (34.7%)	+3,278 (+0.9p)	+4.2%
販売費及び一般管理費 (率)	62,684 (30.5%)	65,523 (30.2%)	67,051 (30.4%)	67,591 (29.5%)	67,166 (28.8%)	△425 (△0.7p)	△0.6%
営業利益 (率)	5,306 (2.6%)	6,242 (2.9%)	6,832 (3.1%)	9,860 (4.3%)	13,563 (5.8%)	+3,703 (+1.5p)	+37.6%
経常利益 (率)	5,741 (2.8%)	7,528 (3.5%)	8,051 (3.7%)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	2,559 (1.2%)	4,425 (2.0%)	4,230 (1.9%)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-5 営業利益及び経常利益

営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加、売上総利益率の改善、販管費の効率的な使用等により、前年同期比37.6%増の135億円と大幅増益となりました。

経常利益は、円高の進行により為替差損13億円を計上したものの、前年同期比17.3%増の127億円となりました。



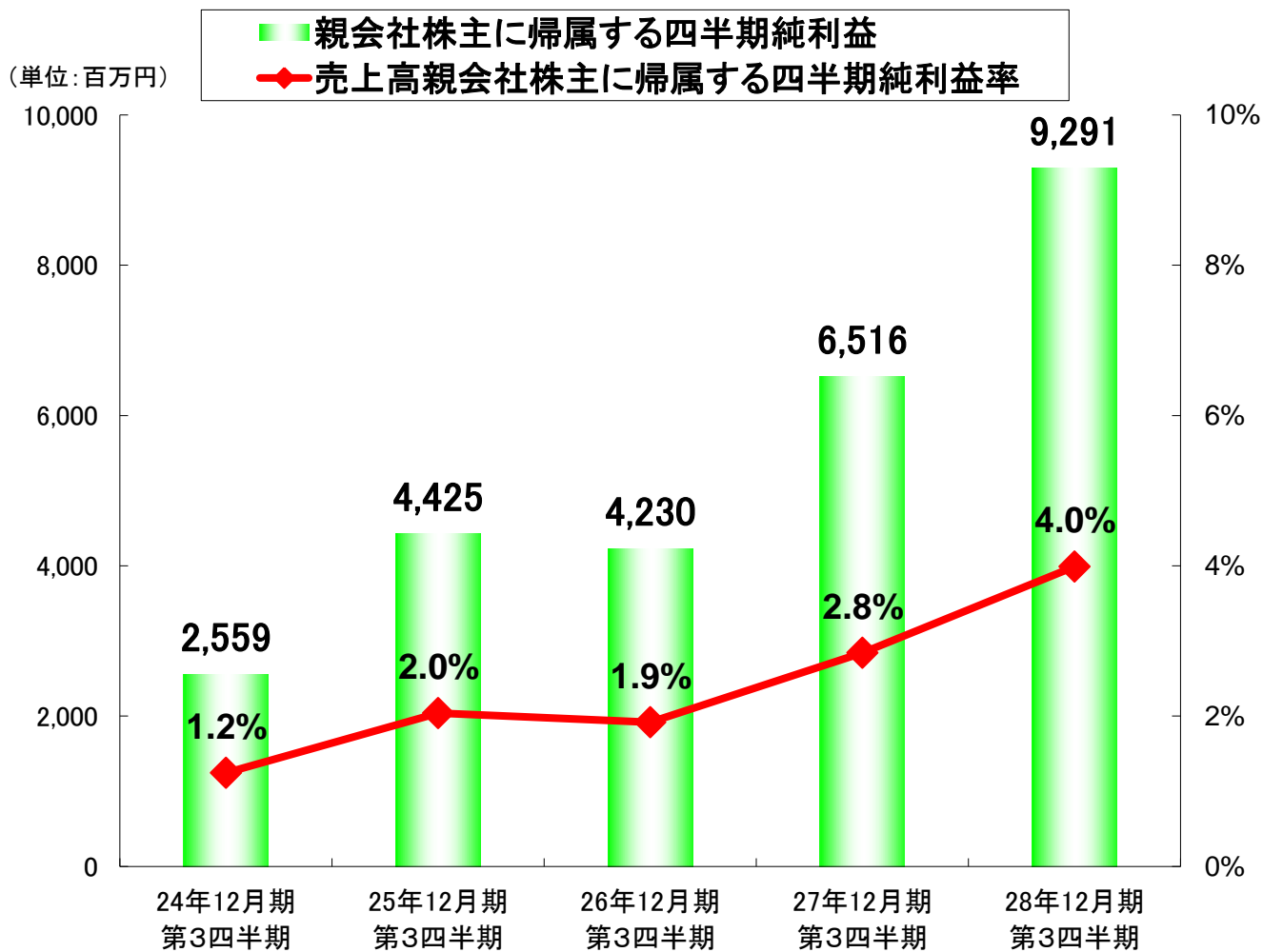
(単位:百万円)

	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	205,734	216,904	220,546	229,084	232,870	+3,786	+1.7%
売上総利益 (率)	67,991 (33.0%)	71,766 (33.1%)	73,883 (33.5%)	77,451 (33.8%)	80,729 (34.7%)	+3,278 (+0.9p)	+4.2%
販売費及び一般管理費 (率)	62,684 (30.5%)	65,523 (30.2%)	67,051 (30.4%)	67,591 (29.5%)	67,166 (28.8%)	△425 (△0.7p)	△0.6%
営業利益 (率)	5,306 (2.6%)	6,242 (2.9%)	6,832 (3.1%)	9,860 (4.3%)	13,563 (5.8%)	+3,703 (+1.5p)	+37.6%
経常利益 (率)	5,741 (2.8%)	7,528 (3.5%)	8,051 (3.7%)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	2,559 (1.2%)	4,425 (2.0%)	4,230 (1.9%)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比42.6%増の92億円となりました。



(単位:百万円)

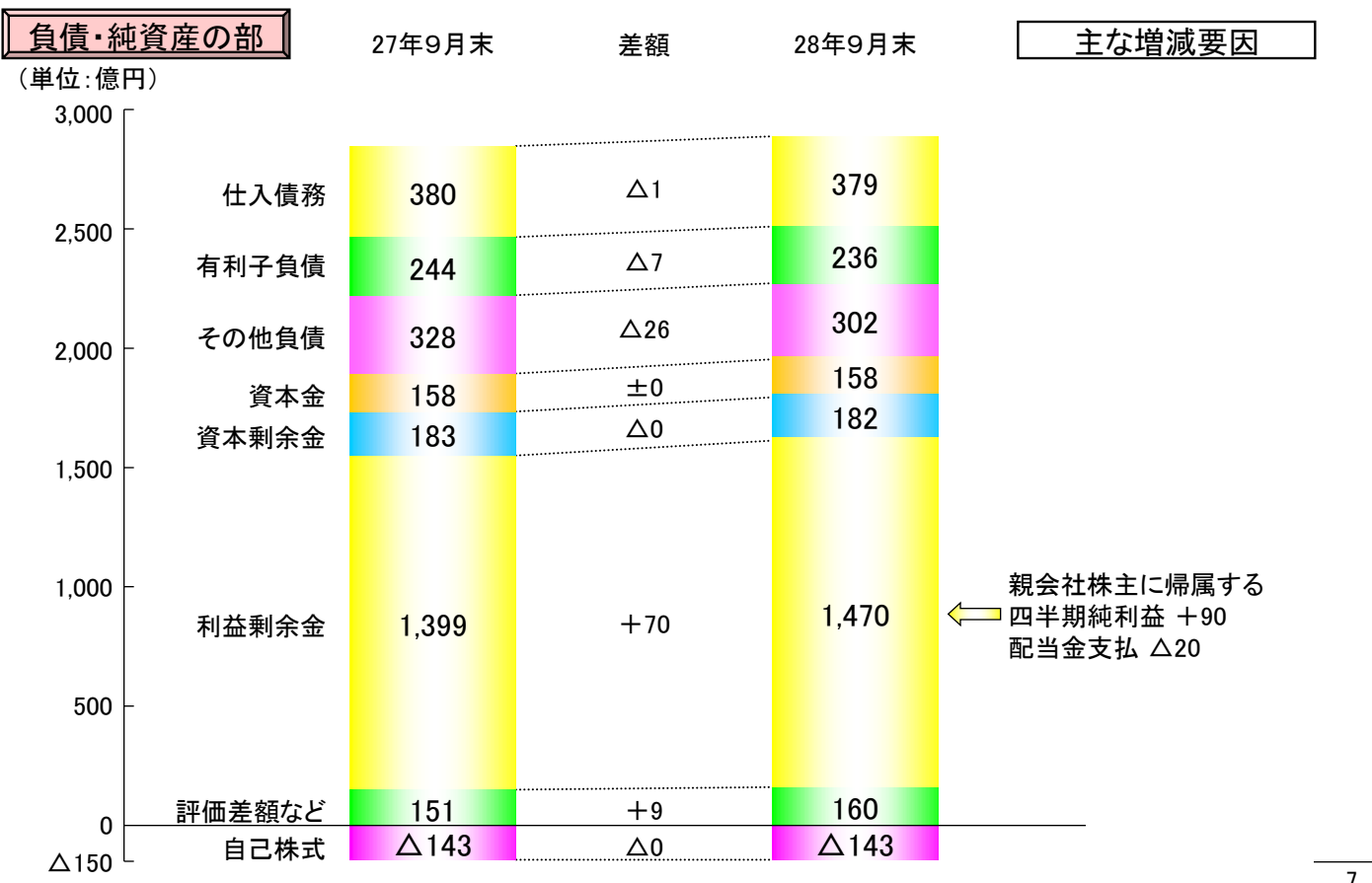
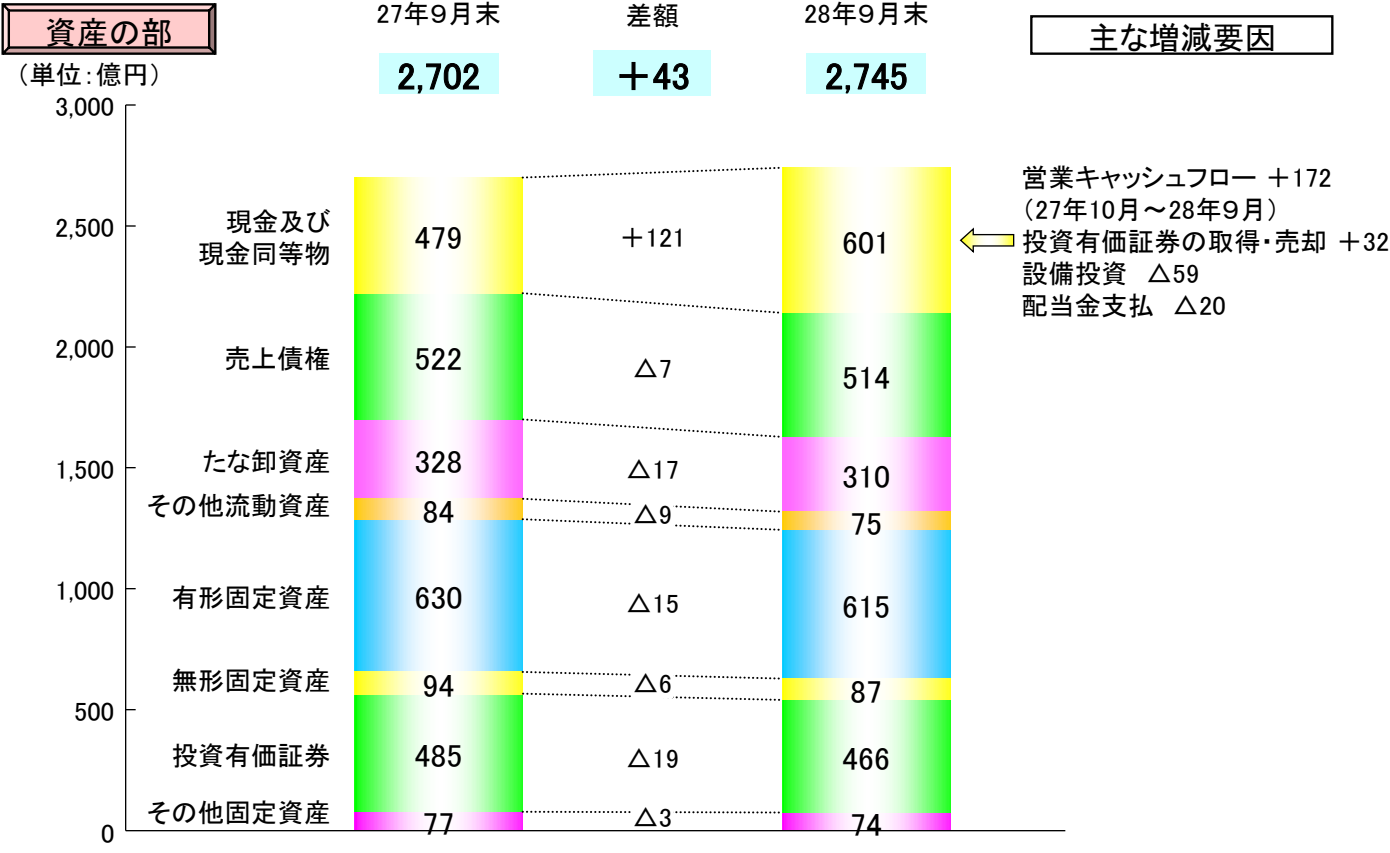
	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
経常利益 (率)	5,741 (2.8%)	7,528 (3.5%)	8,051 (3.7%)	10,858 (4.7%)	12,739 (5.5%)	+1,881 (+0.7p)	+17.3%
特別損益	+114	+67	△447	+140	+388	+248	+177.1%
特別利益	+2,021	+1,245	+178	+1,450	+523	△927	△63.9%
特別損失	△1,907	△1,178	△625	△1,309	△134	+1,175	—
税金等調整前四半期純利益 (率)	5,854 (2.8%)	7,595 (3.5%)	7,603 (3.4%)	10,999 (4.8%)	13,128 (5.6%)	+2,129 (+0.8p)	+19.4%
法人税等	3,295	3,170	3,373	4,482	3,836	△646	△14.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	2,559 (1.2%)	4,425 (2.0%)	4,230 (1.9%)	6,516 (2.8%)	9,291 (4.0%)	+2,775 (+1.1p)	+42.6%



## 2. 貸借対照表の状況

総資産は、前年同期末より43億円増加し、2,745億円となりました。

※比較のため前期の数値は27年12月期第3四半期(27年9月末)を使用しており、決算短信記載の数値と異なります。  
 ※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。



### 3. キャッシュフロー・設備投資の状況

#### <キャッシュフロー>

営業キャッシュフローは160億円、投資キャッシュフローは10億円となり、フリーキャッシュフロー(※)は171億円となりました。  
また、財務キャッシュフローは△34億円となりました。

以上の結果、当期末の現金及び現金同等物は、期首から131億円増加し、601億円となりました。

(※) フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー

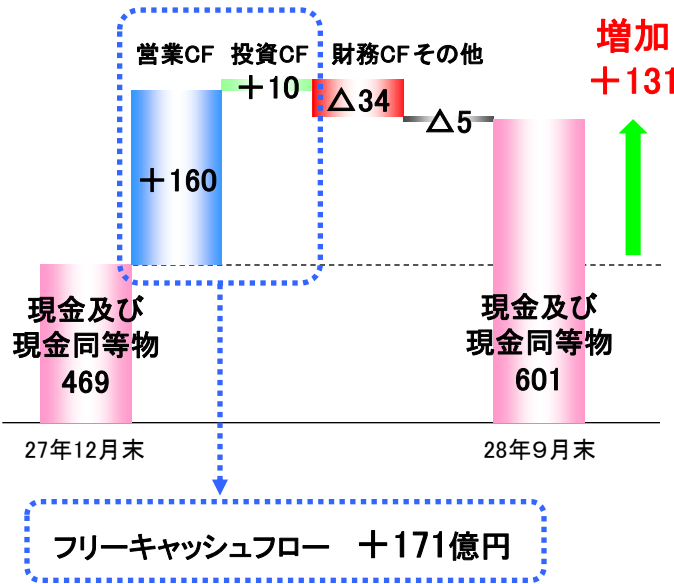
#### <設備投資>

設備投資は、40億円を実施しました。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。

#### □ 現金及び現金同等物の増減内訳 28年12月期 <1～9月>

(単位:億円)



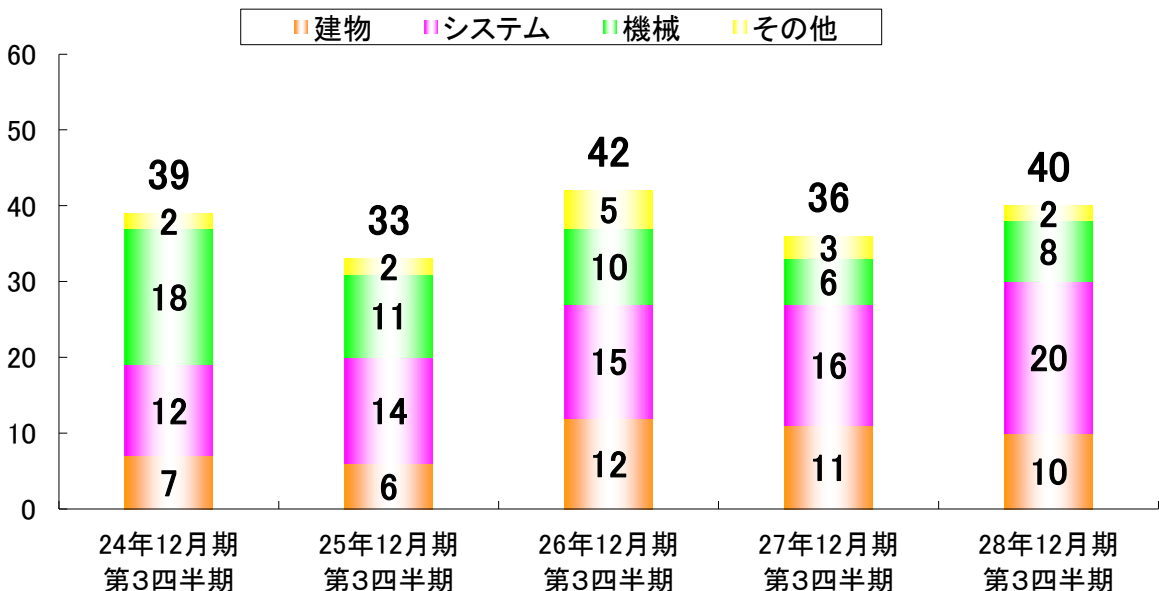
#### □ キャッシュ・フロー計算書 28年12月期 <1～9月>

(単位:億円)

◆営業キャッシュフロー	+160
税金等調整前四半期純利益	+131
減価償却費	+48
賞与引当金の増減	+16
法人税等の支払	△33
その他	△2
◆投資キャッシュフロー	+10
投資有価証券の取得、売却	+33
定期預金の増減	+13
設備投資	△40
その他	+4
◆財務キャッシュフロー	△34
配当金の支払	△20
リース債務の返済	△9
借入金の増減	△4

#### □ 設備投資の推移

(単位:億円)



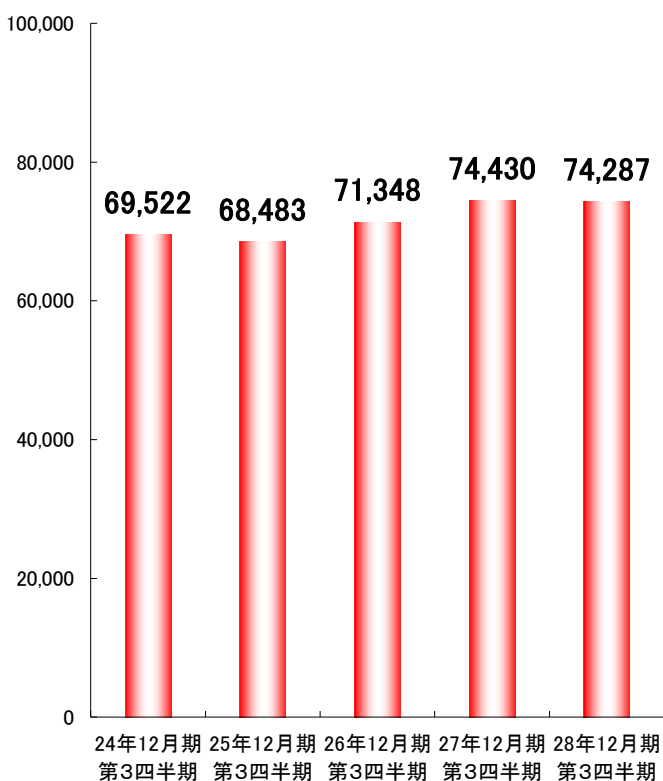
# 4. 事業セグメントの損益状況

## ◆4-1 ステーションナリー関連事業

売上高は、国内事業は堅調に推移したものの、海外事業において円高に伴う為替換算による売上減少影響があったことから、前年同期比0.2%減の742億円となりました。  
 営業利益は、前年7月に実施した価格改定の浸透に努めたこと等に伴う売上総利益率の向上や固定費の抑制等により、前年同期比28.6%増の55億円となりました。

### 売上高

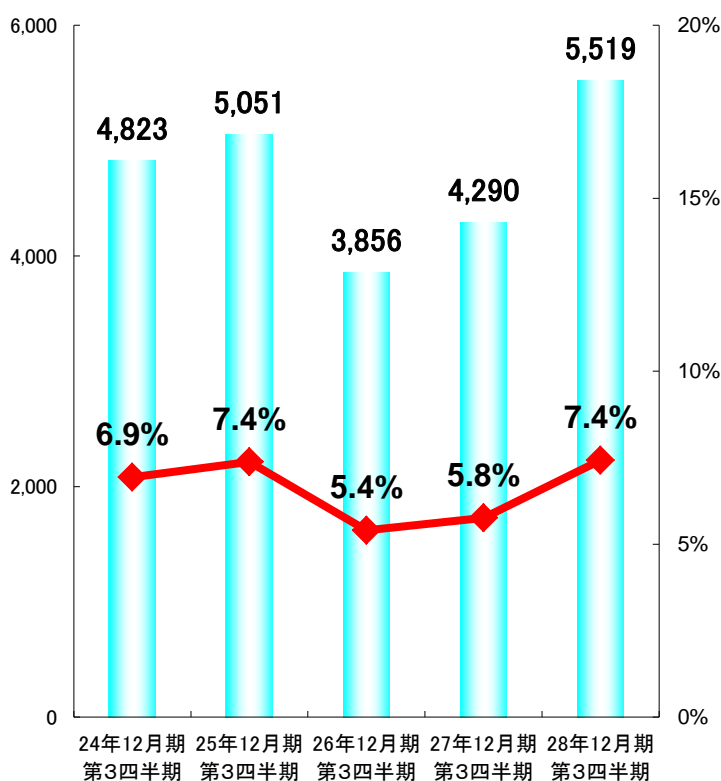
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	69,522	68,483	71,348	74,430	74,287	△143	△0.2%
営業利益 (率)	4,823 (6.9%)	5,051 (7.4%)	3,856 (5.4%)	4,290 (5.8%)	5,519 (7.4%)	+1,229 (+1.7p)	+28.6%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。  
 ※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、第1四半期連結会計期間より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しました。これにより、当第3四半期連結累計期間のステーションナリー関連事業の営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べて、510百万円増加しております。

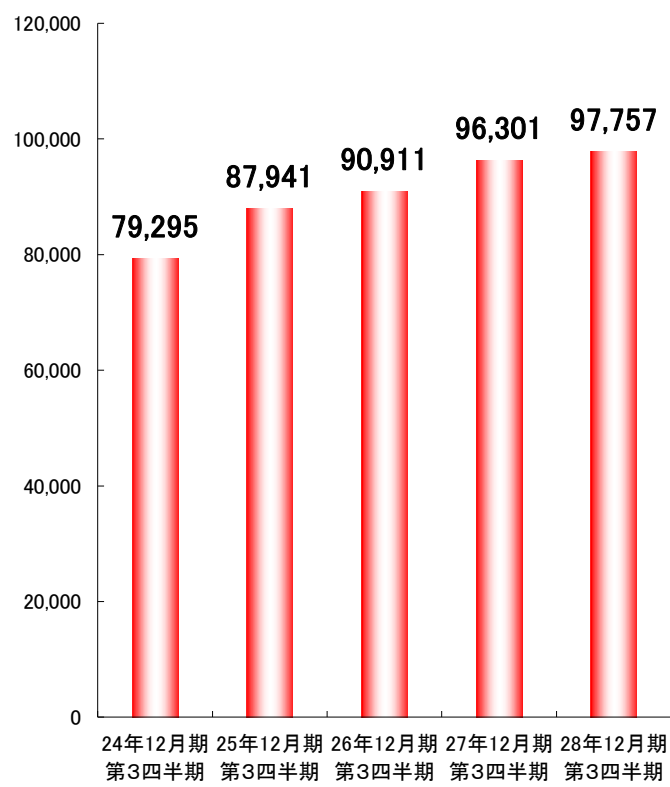
# 4. 事業セグメントの損益状況

## ◆4-2 ファニチャー関連事業

売上高は、国内事業の牽引により、前年同期比1.5%増の977億円となりました。  
 営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加、販売部門の高付加価値提案の推進や工場の生産性改善による売上総利益率の改善等により、前年同期比54.9%増の89億円となりました。

### 売上高

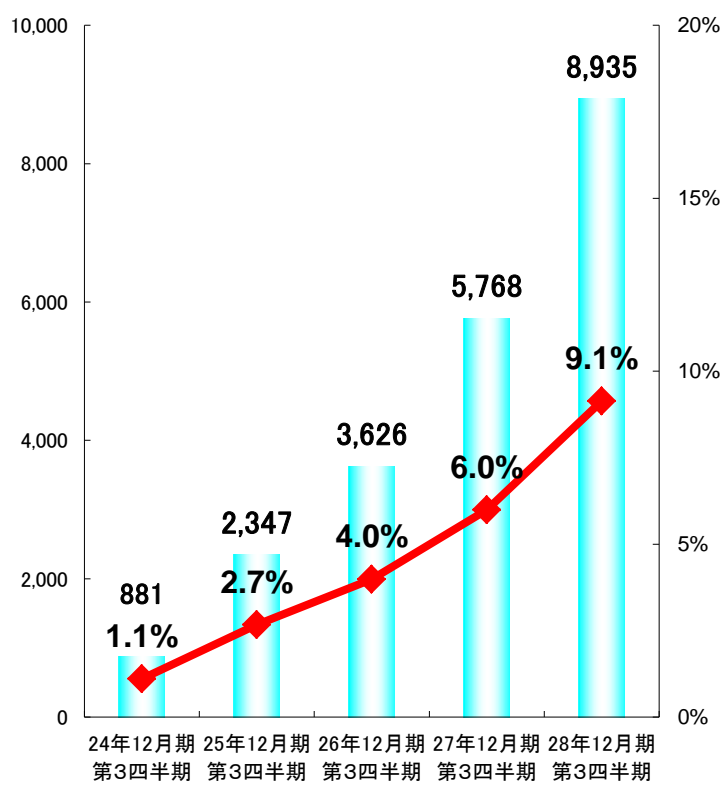
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆ 売上高営業利益率



(単位:百万円)

	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	79,295	87,941	90,911	96,301	97,757	+1,456	+1.5%
営業利益 (率)	881 (1.1%)	2,347 (2.7%)	3,626 (4.0%)	5,768 (6.0%)	8,935 (9.1%)	+3,167 (+3.2p)	+54.9%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。  
 ※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、第1四半期連結会計期間より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しました。これにより、当第3四半期連結累計期間のファニチャー関連事業の営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べて、759百万円増加しております。

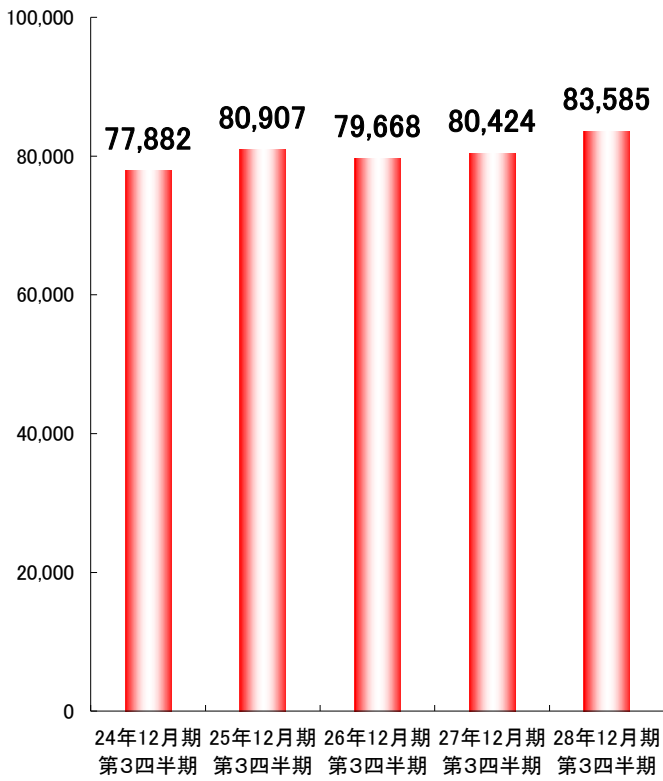
# 4. 事業セグメントの損益状況

## ◆4-3 通販・小売関連事業

売上高は、カウネット及びアクタスともに増収となり、前年同期比3.9%増の835億円となりました。  
 営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加並びにカウネットにおける売上総利益率の高い商品の売上伸長等により、前年同期比69.7%増の26億円となりました。

### 売上高

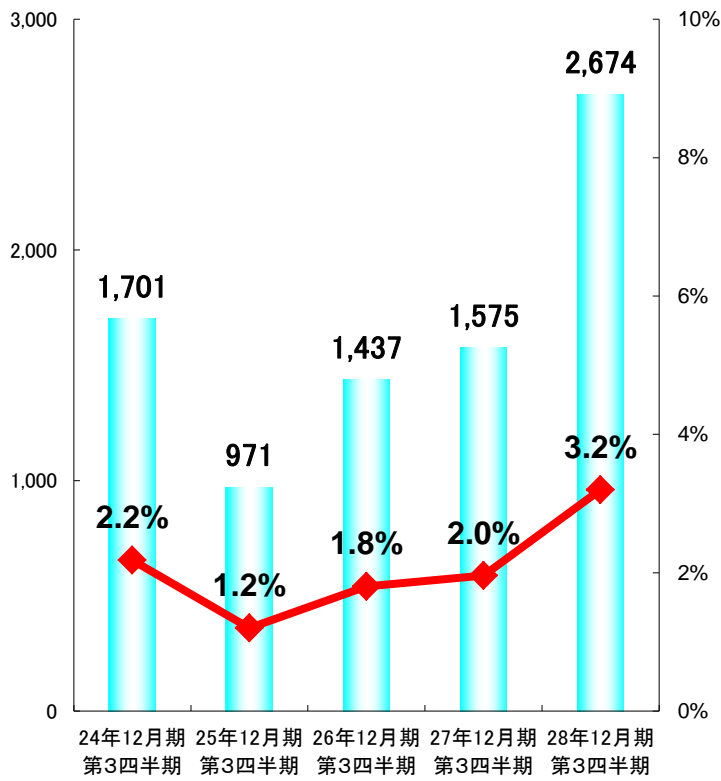
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	24年12月期 第3四半期	25年12月期 第3四半期	26年12月期 第3四半期	27年12月期 第3四半期	28年12月期 第3四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	77,882	80,907	79,668	80,424	83,585	+3,161	+3.9%
営業利益 (率)	1,701 (2.2%)	971 (1.2%)	1,437 (1.8%)	1,575 (2.0%)	2,674 (3.2%)	+1,099 (+1.2p)	+69.7%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。  
 ※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、第1四半期連結会計期間より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しました。これにより、当第3四半期連結累計期間の通販・小売関連事業の営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べて、493百万円増加しております。

## 5. 28年12月期の見通し

平成28年12月期の業績予想は、平成28年7月25日に発表しました「平成28年12月期 第2四半期決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

### 通 期

(単位:百万円)

	27年12月期 通期 実績 (12ヶ月)	28年12月期 通期 予想 (12ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率
売 上 高	304,276	310,000	+5,724		+1.9%
ステーションリー	97,553	97,800	+247		+0.3%
ファニチャー	126,354	128,700	+2,346		+1.9%
通 販 ・ 小 売	109,639	113,400	+3,761		+3.4%
調 整 額	△ 29,269	△ 29,900	△ 631		-
営 業 利 益 (率)	11,102 (3.6%)	14,900 (4.8%)	+3,798	+1.2p	+34.2%
ステーションリー (率)	4,676 (4.8%)	6,100 (6.2%)	+1,424	+1.4p	+30.5%
ファニチャー (率)	6,375 (5.0%)	10,400 (8.1%)	+4,025	+3.0p	+63.1%
通 販 ・ 小 売 (率)	2,408 (2.2%)	3,200 (2.8%)	+792	+0.6p	+32.9%
調 整 額	△ 2,358	△ 4,800	△ 2,442		-
経 常 利 益 (率)	11,880 (3.9%)	14,400 (4.6%)	+2,520	+0.7p	+21.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	6,312 (2.1%)	10,200 (3.3%)	+3,888	+1.2p	+61.6%

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、当連結会計期間より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しました。これにより、各事業セグメントの営業利益は、前期に比べて、ステーションリー関連事業で6億円、ファニチャー関連事業で10億円、通販・小売関連事業で6億円、それぞれの増加を、調整額で23億円の減少を見込んでいます。

※この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## ～ビジネスで使える機能性ペンケース～ **ペントレーにもなるペンケース<ウィズプラス>を発売**

当社は、持ち運びしやすく、ペントレーにもなるペンケース<ウィズプラス>を発売しました。  
 <ウィズプラス>は、社内・社外の移動時には手帳と一緒にスムーズに持ち運べ、デスクで集中して業務に取り組みたい時にはペントレーとして使える、ビジネスのさまざまなシーンで活躍する新しいタイプのペンケースです。

ペンケース本体の裏側には、滑り止めゴム付きのコーナーベルトがあり、各種サイズの手帳にはさんで持ち運びがしやすくなっています。

また、表側には、約4本(※)のペンを挿せるポケットが付いているので、よく使うペンを素早く取り出すことができ便利です。

本体を開くと、中身が見やすく、出し入れがしやすいペントレー形状になり、約8本(※)のペンを収納できます。付箋などをしまえるメッシュポケットもついています。

(※)ペンの種類によって前後します。



(上) 本体を開いたところ  
 (下) 手帳にはさんだところ

## ～ドットライナー史上、最大幅～ **大型封筒ののり付けに最適な「ドットライナーワイド」を発売**

当社は、ドットライナーシリーズ最大幅(20mm)で広い面をスピーディーにのり付けできる「テープのり<ドットライナーワイド>」を発売しました。

ドットライナーシリーズは、平成17年の発売以来、「のり」がドット(=点)状に粘着することでのりの切れが良く、手軽に美しくのり付けができることから、大変好評をいただき、累計8,000万個(※)を販売しています。

ドットライナーワイドは、一般的なテープのり(幅8.4mm)の約2.3倍となる幅20mmの極太タイプです。

特に、大型封筒ののり付け作業に適しており、今まで2列でのり付けをしていた方でも1度でさっと、しっかり塗れるので、よりスピーディーに作業をすることが可能です。

ドットライナーのスタンダードタイプと本体が共通なので、本体を1つ持っていれば、つめ替え用テープの交換だけでどちらも使用することができます。

(※)平成28年2月末時点。



「テープのり<ドットライナーワイド>」の使用イメージ

## ～ワークスタイル研究の知見から誕生！～ 「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」の本格販売を開始

当社は、デザイン性と機能性の両面からサポートする家具ブランド「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」に、新たに「バウンダリー」シリーズとして、カウンターやシェルフ等の5アイテムを追加発売しました。

「DAYS OFFICE」は、新しいワークスタイルの執務環境を提供するオリジナルブランドとして、昨年第一弾のチェア3種、テーブル3種を先行発売して以来、好評を頂いています。



「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」の使用イメージ

今回、新たに「バウンダリー」シリーズとして、コミュニケーションを誘発させる「ビッグカウンター」と「ビッグテーブル」、視線が抜けるデザインの「ウォールシェルフ」、リラックスできる布製の「ワイヤードソファ」、緩やかに仕切りができる「ラダースクリーン」の計5アイテムと、各オプション(ペンダントライト、ラグ、ホワイトボード等)を追加し、コミュニケーション空間構成家具として販売展開します。

当社が蓄積しているワークスタイル研究のノウハウで企画を行い、従来のオフィス概念にとらわれない執務環境を大掛かりな内装工事を伴わずに構成することができます。

## ～独自視点のオリジナル商品でお困りごとと解決を提案～ 「お困りごとと解決BOOK2016年秋冬号」を発刊

株式会社カウネットは、オリジナル商品「カウコレプレミアム」だけを掲載した「お困りごとと解決BOOK2016年秋冬号」を発刊しました。

カウネットでは、お客様のお困りごとを解決する商品「カウコレプレミアム」シリーズの開発に注力しており、商品の価値を伝えるために「カウコレプレミアム」だけを掲載した冊子を平成27年8月から発刊しています。

「お困りごとと解決BOOK2016年秋冬号」は、掲載商品数、ページ数を前号から大幅に増加させるとともに、商品ページ以外でもお困りごとと解決が伝わるよう工夫を施しています。例えば、「オフィスにはお困りごとがいっぱい！」のコーナーでは、実際にオフィスで起こるお困りごとの事例をパースやイラストを用いて紹介しているほか、「『カウコレプレミアム』のちょっといい話」のコーナーでは、実際にお客様にご登場いただき「カウコレプレミアム」が使われた感想やエピソードを紹介しています。

なお、当カタログ発刊と同時に、「カウネットカタログ2016年秋冬号」、「カウネット家具カタログ2016年秋冬号」も発刊しています。

